

海上の森自然観察会

テーマ 生き物の冬越しを観察しよう

日時 1月19日(土)10:00~14:00(曇り時々晴)

参加者 一般2、指導員7

川でツララが見られるほど気温は低かったのですが、風がなく、何よりもこれまでさんざん雨にたたられていたので、雨を心配することなく観察会ができるということでした。

出発前、駐車場から市道に出る橋の近くでベニマシコの雌雄を見ることができ、幸先の良い観察会の始まりとなりました。

テーマが「冬越し」ということで、まずスイバなどのロゼットを観察しました。その隣にはセイヨウタンポポの花がいくつか咲いていました。

歩き出してから、いろいろな樹木の冬芽と葉痕をルーペを使って観察しました。冬芽や葉痕は種ごとに独特な形で、動物の顔などになぞらえます。ニセアカシア、リョウブ、キリなどいろいろと見比べましたが、傑作はオオカメノキの「バルタン星人」と呼ばれる冬芽でした。



(オオカメノキの冬芽)

あるだけでした。その中の石や枯れ枝をひっくり返すと、カゲロウやカワゲラの仲間の幼虫が動いていました。氷ができるほどの冷たい水の中にも、水生昆虫が息づいていることが分かります。

観察の途中、何ヶ所かでウスタビガのきれいな緑色の繭を見つけました。葉が落ちた今の時期には目立ちますが、この蛾が繭を作る6月頃は葉が繁り、繭の緑色が保護色となっています。11月頃に成虫となって出るので、今の時期に見られる繭の中に蛹はありません。ただし、羽化してすぐに交尾し産卵するので、卵が繭の外側についていることがあります。今回、そのような繭を見つけ、卵で越冬することを確認できました。

(報告: 齋竹善行)

<観察できたもの>

野鳥: ベニマシコ、アオジ、ウグイス、シジュウカラ、ヒガラ、メジロ、ヒヨドリ、ルリビタキ、シロハラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、コゲラ、ホオジロ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、トビ、オオタカ、ウソ、キジバト、モズ、エナガ(声)

花: セイヨウタンポポ、サクラバハノキ、ヤマウグイスカグラ、サザンカ、ヤブツバキ

蕾: アセビ



(観察会のようす)

大寒間近なこんな寒い季節でも、花を開く植物もあり、赤味を帯びたサクラバハノキの雄花、紫色を帯びた褐色のスズカカンアオイの花、1輪だけ咲いたヤマウグイスカグラなどを見ながら、サテライトに向かいました。サテライト近くでは、サザンカが咲き、今年は寒さのせいか開花が遅いヤブツバキも2輪だけ咲いた木を1本だけ見ることができました。

野鳥ではルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、アオジ、カケスなど冬によく見られるものが姿を現しましたが、この時期に普通に見られるツグミはどうしたのか出現しませんでした。ウソは今季よく見られるようですが、この日は参加者の一人がみを見つけ写真に撮ることができたただけでした。

大正池は相変わらず水が溜まっていなくて、細い流れが



(ウスタビガの繭と卵)